

牧農空間活性化協議会 通信



〈 創刊号 〉

2019年（平成31年）4月10日 発行

牧自治会員、活性化協議会委員、牧地区農地所有者、事業関係者の皆様へ

牧農空間活性化協議会は、

- ①「みんなの牧♥里プロジェクト」…コープこうべとの契約による牧里地・里山保全管理活動
 - ②「棚田保全活動」…山菜のさと、耕作放棄地発生防止・解消活動(H29年農業会議所から受賞)
 - ③「多面的機能支払交付金」…農道・水路・ため池等の保全管理
 - ④「土地改良事業推進委員会」…3月15日の自治会集会において承認されました、土地改良事業法に基づく農地整備事業で、牧農空間活性化協議会の組織に位置付けて行う。
- の4つの事業に取り組んでいます。

このたび新しい年度になったことを期に、これらの事業をより知って頂く必要があることから、通信を発行し各ご家庭に配布して周知活動を行いたいと思います。

この通信では、事業の進捗状況のみならず、お知らせとして事業への参加呼びかけや協力依頼、集会のご案内なども致します。是非ご覧いただきご理解とご協力をお願いいたします。
(農空間活性化協議会役員一同)

☆ 獣害柵の点検・補修を行います ☆

☆ 平成31年4月20日(土) 午前9時00分～正午まで

☆ 牧公民館に集合

すでにイノシシやシカの被害が発生しています。近年は被害が年中発生している状況です。昨年の台風や豪雨被害で獣害柵が被害を受け、一部損壊したり不安定な箇所があると思います。そこで、農繁期を前に獣害柵の点検・補修作業を行います。

当日は、地元の方を中心に、コープこうべの「農業ボランティア」の方、「棚田ファンクラブ」の皆さん方にも協力をお願いしています。皆さん合同で作業を行います。

班に分かれて作業を行います。点検補修に必要な道具(セット、ペンチ、鋸・ナタ等)は各自ご用意下さい。
皆さんのご参加宜しく願います。



裏面もご覧ください

ギフチョウの生息地視察・観察会

平成31年4月20日(土)

午後1時 公民館に集合、出発

(川南～後谷方面を歩きます)

所要時間は1時間30分程度を予定しています。

コーディネーターは、

- ・日本鱗翅学会/日本チョウ類保全協会/大阪昆虫同好会 森地重博さん
- ・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 理学博士 竹内剛さん



興味のある方は
ぜひ参加してください



ギフチョウは、桜の開花とほぼ同じくして出現し、「春の女神」もしくは「早春の舞姫」と呼ばれています。現在、大阪府内では牧地区のみに生息すると言われています。

2000年代までは比較的個体数が多かったが、2010年ごろから激減し、2012年に行った調査では、鴻応山東斜面で数十卵が見つかったが、牧では見つからず、この卵の約半数を大阪府立大学に持ち帰り飼育。

2013年5～6月、飼育していたギフチョウの幼虫を鴻応山東斜面及び牧に放飼。2014年から今日まで、牧ではギフチョウが生息していますが、二ホンジカの影響なのか食餌植物の「ミヤコアオイ」が減少しています。

また、ギフチョウは、マニアに人気があり、過度に採集されることも減少要因のひとつで、日本各地で採取禁止条例が制定されています。大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。(大阪府立大学、竹内剛 理学博士)

第1回 土地改良事業推進委員会役員会を開催しました

4月4日に土地改良事業推進委員会役員会を(7名)全員参加のもと開催しました。

「工事・評価・換地部会」部会長に上野稔さんを、「営農・法人部会」部会長に長澤伸之さん、事務的な作業を行う書記に鴻野芳樹さん、会計を中西信陽さんをお願いすることになりました。今後のスケジュールなど確認、事業参加申出書を4月中に集めることを確認しました。また、大阪府との連携を密にして今後のスケジュールや「小作解消のルール作り」を早急に進めていきます。

事業参加申出書の未提出の方は早急をお願いします。

大阪府域のギフチョウの現状

大阪府立大学 石井 実

ギフチョウ(アゲハチョウ科)は本州のみに分布する日本固有種。
成虫は年に1回、早春に出現する。



ギフチョウは早春、里山林の林縁を舞う



幼虫は里山の林床の
カンアオイ類(ウ
マノスズクサ科)の
新葉を食べる



日本蝴蝶学会自然保護委員会
歌垣・鴻応山の希少チョウ類保全特別委員会
ギフチョウ観覧会 2018.4.20

ギフチョウの季節生活環

ギフチョウは早春、サクラの開花の頃に羽化する。幼虫はカンアオイ類の葉を食べ
て育ち、初夏に蛹(さなぎ)になる。蛹期間は夏秋冬と10か月にも及ぶ。



成虫は4月に現れる



卵は4~5月に産まれる



幼虫は5~6月に育つ



蛹は6月から次の春まで! 2

大阪府内におけるギフチョウの分布

・かつては北摂山地、
金剛・生駒山地、和泉
山脈に広く分布し、産
地も多かった。

・現在、安定した産地
は、**鴻応山周辺(北摂
山地)**と**大和葛城山周
辺(金剛・生駒山地)の
み**である。

- 安定して生息する地域
- 絶滅が危惧される地域
- 既に絶滅した地域



森地重博氏原図

能勢吉野地区ではギフチョウは絶滅状態

➤歌垣山(554 m)北西麓のスギ・ヒ
ノキ植林、その下部に散在するク
リ畑、コナラ・アカマツ林の内外に
食草のミヤコアオイが自生し、本種
が比較的高密度で見られた。

➤この生息地に関西電力の変電所
が建設されることになり、1997年に
着工、2001年に竣工した。

➤1997年より行われている**卵塊調
査**では、1997年には1,558卵が確
認されたが、竣工後は2003年の
892卵をピークに低迷が続き、2009
年に20卵が確認されたのを最後に
見られなくなった。

(植田ほか、2010; 森地、2010; 吉村ほか
、2015)



能勢吉野地区ではギフチョウは絶滅状態

➤ギフチョウが絶滅状態: 衰退要因として、変電所と取付け道路の建設、スギ・ヒノキ植林の伸長、クリ園の放棄などに加えて、ニホンジカの過剰採食による食草・蜜源植物群落の衰退が考えられる。



林床の植生は単純になり、ミヤコアオイの葉は極端に小さい。5

鴻応山のギフチョウは大阪府北部唯一の個体群



鴻応山のギフチョウ生息地 (2015.5.2)

➤鴻応山(679 m)山麓のスギ・ヒノキ植林、コナラ・アカマツ林、集落に接するクリ畑の外にミヤコアオイが広く分布し、本種の生息地になっている。6

鴻応山のギフチョウは大阪府北部唯一の個体群

➤2011年頃には個体群の衰退が始まったと考えられ、2013年は1卵しか確認できなかった(右図)。(吉村ほか, 2015)

➤そこで、2012年より大阪府大において本個体群の累代飼育を開始、2013年と2014年に「補強」の試みとして保存系統の幼虫を放飼した。



鴻応山の本種生息地における卵塊調査の結果。図中の数字は食草1000枚あたりの卵数、矢印①②は幼虫の放飼を表す。(吉村修論)

鴻応山のギフチョウは大阪府北部唯一の個体群

➤個体群衰退の要因として、植林の伸長、里山林の荒廃、採集者の集中などが考えられ、今後はニホンジカの増加も懸念される。

鴻応山の生息地でも食草の衰退が始まっている?

2014年春に鴻応山と能勢町吉野地区の生息地で調べたミヤコアオイの株数と葉数、大きな(小さな)葉※をつけている株の数(%), 花のある(花のない)株の数(%). (吉村ほか, 2015)
※大きな葉は葉身6cm以上、小さな葉は葉身6cm未満。

調査地	調査株数	株当たり葉数	大きな葉を付けた株数	小さな葉を付けた株の数(%)	調査株数	花を付けた株数(%)	花のない株数(%)
鴻応山							
サイトK	1207	3.22	414 (34.3)	793 (65.7)	1208	319 (26.4)	889 (73.6)
サイトM	2275	3.79	881 (38.7)	1394 (61.3)	2275	1104 (48.5)	1171 (51.5)
能勢吉野							
サイトY	2177	2.21	273 (12.5)	1904 (87.5)	2171	263 (12.1)	1908 (87.9)





